

◆ 2020 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 荒川流域ネットワーク
代表者：代表理事 鈴木 勝行
URL : <https://arakawa-ryuiki.net>

23A-12

1. 活動が必要とされた状況

アユの遡上が困難な状態が続いていた入間川水系の各河川に対し、私たちの提案を受けて埼玉県により入間川の8ヶ所、越辺川の2ヶ所の堰等に魚道が設置された。現在、都幾川の堰に魚道設置事業が進行中である。魚道は設置されたら終わりではなく、設置後も遡上調査を行い、遡上が困難な魚道に対し、補修・流量管理することで遡上効果を上げる必要がある。また、流域の人たちに夏の風物詩であった地曳網などの川漁体験を通して、川を地域の資産として見直してもらう必要もあった。

2. 活動の内容

2020年は新型コロナの蔓延防止のため、多数の人が参集する活動は、全て変更せざるを得なかった。3月22日～5月15日の間、入間川の菅間堰下流で、四つ手網と釣りで魚類相調査を実施。5日間、魚道の入り口でビデオカメラを使った映像による調査も実施した（従事者延べ19名）。標識作業は豊水橋下で2回行い、秋ヶ瀬取水堰で捕獲したアユ3,235尾に標識を付け、橋の下で入間川に放流した（作業者延べ14名）。6月1日から矢嵐堰までの間を調査し、投網が解禁された8月1日からは、入間川を中心に調査を実施した（延べ15名）。放流地上流に捕獲情報の提供をお願いする看板を10ヶ所に設置した。魚捕りイベントは、コロナ禍のため一般参加者を募集できず、スタッフによるアユなどの魚類生息調査に変更して実施。実施したのは8月9日都幾川二瀬橋、8月16日高麗川獅子岩橋、9月13日越辺川石今橋の3ヶ所だった（延べ41名）。2月23日・24日の2日間を掛け、浅間堰の魚道に対し生コンを使ってプールやスロープを作り、補修作業を行なった（延べ13名）。



浅間堰での補修作業の様子（2月24日）



高麗川での魚類調査の様子（8月16日）

3. 活動の成果

菅間堰下流での調査では、東京湾から遡上してきた稚アユ29尾を捕獲。稚アユが魚道入口まで遡上してきていることが確認できた。捕食魚であるコクチバス・ブルーギル55尾を捕獲・駆除した。映像での調査は、増水状態が続いたため、遡上を確認できたのは1尾だった。豊水橋上流の遡上調査では、3尾の標識アユを捕獲して遡上を確認できたが、矢嵐堰下流では確認できなかった。中間にある西武鉄道の鉄橋の床固め工は落差が110cmあり、魚道もないため遡上障害物になっていることが分かった。都幾川・高麗川・越辺川での魚類の生息調査では、各河川の河床状況が変化し、特に都幾川の捕獲魚が極めて少なく、2019年の台風の影響が未だ続いていることを確認した。浅間堰の魚道補修作業は、生コンを使っての手探りでの作業になったが、プール等を作ったことで、遡上環境を大幅に改善することができた。

4. 今後に残された課題

現在、埼玉県により都幾川の矢来堰に魚道設置事業が行われているため、完成後にその遡上効果を調査する必要がある。今回確認した西武鉄道の鉄橋の床固め工や未着工の高麗川の堰への魚道設置を求める活動も必要である。入間川水系へのアユの遡上数が大幅に減少しているため、遡上数を増やす活動も今後課題となっている。